

み

か

い

安住院便り (第16号)

平成18年1月1日発行
〒703-8236
岡山市国富3丁目1-29
住職 生駒琢一
TEL(086)272-2320 FAX(086)273-9327

伽藍

皆さん、お寺の境内の建物のことなどを伽藍（がらん）と言います。「がらんどう」とは、広い場所に何も無い静けさの漂つたことですが、これもお寺の伽藍が大きく立派で静寂であることに由来しています。

もともと僧伽藍が略されたもので、僧侶が集団生活をする場所をさすインドの古い言葉がもとで、「平家物語」で有名な「祇園精舎」の精舎はインドでの僧坊を示すそうです。

仏教がインドから中国を経て日本に伝わつて来る間に、僧坊や伽藍の形体も、その地に相応しい様式に変化して來たのです。日本では飛鳥時代から奈良の都に多くの寺院が創建されましたが、金堂や塔などを対象的に並べる構成が確立され、今の大坂・四天王寺の伽藍に代表されるような寺院建築が盛んになりました。その後、日本での仏教が色々な宗団に分かれるなか、伽藍の様式も変わりました。真言宗では、高野山に代表されるように山上に建造されることが多く、敷地の制約により整然と配置することは難くなりましたが、総門・本堂・塔などを七堂伽藍と言うように、多くの建造物で成り立っています。また「瓶井山禅光寺安住院」など院号の名称も確立されました。



か、といふことで、それが修行です。でも一般の人が、都会の雑踏の中で修行をすることとは大変難しいことです。そこで昔から、静寂な地に寺院を建立し、悟りを開くことをを目指して修行が実践されてきました。「がらんどう」では、もつたない気持ちにもなりますが、山の木々も含めた自然の中での伽藍という構成は、仏教特に真言宗では欠かせないものなのです。

何をもつて（七堂伽藍）と言うのかは、はつきり決まりはなく、宗団によつても異なります。安住院で見てみると、本堂・多宝塔・仁王門・鐘楼門・客殿（講堂）・藏（経蔵）・大師堂で七つになります。寺院としての形態を保つには、本当は諸堂伽藍が必要で、それぞれ深い仏教の教えがあるのです。お寺も現代風に様変わりしてきていますが、深山に佇む古刹寺院の伽藍では、そこに身を置くだけで、言葉では言い表せない、何か不思議な信仰が芽生えられるのも事実ではないでしょか。これは、仏教に限らず、キリスト教でもあの莊厳な礼拝堂に信仰の源があるのです。

初観音法要のご案内

来る一月十七日（火曜）

午後一時より

本尊千手観音御宝前に於いて、大般若祈祷並びに護摩供を厳修致します。

念頭にお配りする「とし書き」にご記入の上、ご参詣下さい。

また、特別祈祷も申し受けますので、前日までにご連絡下さい。

仁海僧正・記念本出版

醍醐の近く、京都市山科区小野の地の「隨心院」という善通寺派の大本山があります。美女伝説で有名な（小野小町）のゆかりのお寺です。

そのお寺を創建された、仁海僧正の御生誕一〇五〇年を記念して、「仁海」という本が出版されました。学者の頼富本宏教授や作家の井沢元彦氏など多くの先生が、それぞれの分野の視点から執筆され、共著という形での本です。

本年四月十五日（土）に瀬戸内観音靈場開創記念法要が行われます。

井原市嫁いらす観音院（第二十一番札所）です。

瀬戸内観音靈場開創記念法要

また、京都に行かれた時には、隨心院にも参り下さい。

興味をお持ちの方は、是非当院までご連絡下さい。お送りさせていただきます。

三年ぶりの奥之院でしたが、やはり何度訪れても、お大師

の影響か、高野山は観光客で賑わっていましたが、日帰りが多いと皆さんが嘆いていました。

・当麻寺・文殊院へもお参りし、秋の大和路を堪能しました。熊野古道の世界遺産登録

その本の中でも（請雨と仁海僧正）の項目を担当、執筆させていただきました。

高野山参拝

宣しくお願ひ致します。

昨年の十月十三日～十四日、

檀信徒の皆様と、西国三十三ヶ所靈場第七回目として、高

野山を参拝致しました。途中、

お大師様の母君のお寺（高野

山麓の慈尊院）や、また奈良

の古刹として名高い、久米寺

・当麻寺・文殊院へもお参り

し、秋の大和路を堪能しまし

た。熊野古道の世界遺産登録

の影響か、高野山は観光客で賑わっていましたが、日帰り

の紅葉はまだまだでした。

三年ぶりの奥之院でしたが、やはり何度訪れても、お大師

の御入定所の静寂な雰囲気

通り過ぎる観光客に、大師の足跡を語つてあげたい気持ち

でした。信仰というものは、

短時間で出来上がるものではなく、千二百年の歴史が必要

なのです。

次の予定は、四月一〇日（木）

・二十一日（金）です。

